

ナシ（梨）のカルテック栽培

(10アール当り)

時期	目的	資材と施用法
礼肥 (収穫前～直後)	樹勢・根の早急な回復	濃縮酵素液 3～5リットルを適宜薄めて灌水 (300倍) または 500倍で葉面散布 (葉が薄く傷んでいる場合) ※樹勢と地力があれば 酵素液だけとします。もしチッソ切れなら 硫安 20kg を散布します。(または速効性の肥料 20kg)
秋肥 (元肥) (10～11月、落葉前)	1年分の基本となる土作り、樹体の基礎体力を作る栄養の供給	ラクトバチルス 600グラム 堆厩肥 (牛糞など) 1トン (以上) または 米ヌカ 150kg 硫安 60kg ※複合有機肥料を使う場合は チッソ成分 12kg とします。 堆厩肥が鶏糞等で、チッソ成分が多い場合、硫安を減らします。 ※堆厩肥・有機物が不十分な場合は 硫酸カリ 20kg を追加。 畑のカルシウム 40kg (～80kg) ※カルシウムを しっかり効かせて土作りをします。 ※土壌 pH を測定して、酸性の中和に必要な分量の「 畑のカルシウム 」を施用して下さい。(春～夏にも同様の調節をして下さい) ※上記4種を同時に施して、耕します(土と軽く混ぜる)。 施肥位置は 樹の近くだけでなく、園全体に広く全面散布します。 ※秋肥(元肥)の一部は 落葉時に動く根に吸収され、大部分は冬期を通じ土壌微生物により醗酵状態にされて、春から吸収されます。
春肥 (2月、地温上昇前)	春の花と葉・枝に栄養分を供給	硫安 20kg (～30kg) 畑のカルシウム 20kg (～40kg) ※根が動き出す前に、春先からの花と葉・枝の栄養を施用します。 ※チッソのみが効き過ぎて カルシウムが足りないと、花の受粉・着果・初期の果実形成に支障が出ます。 花の前に しっかりカルシウムを効かせて下さい。 ※秋肥に充分施用した場合は 春の施用は少なめとします。もし秋肥時に投入していなければ、春、 ラクトバチルス も施用します。
(5～7月) 肥大中の 葉面散布	初期の肥大促進、樹勢維持	着果後～袋掛け時… 濃縮酵素液 500倍 (または3リットル灌水) ※ピンポン玉大の頃、状態によっては 硫安 20～30kg も散布。
	果実肥大、樹勢維持 葉を厚く、黒斑防止	濃縮酵素液 500倍 カルテックCa液状 500倍
(6月) 玉肥	初期肥大	(5月始め) 濃縮酵素液 3～5リットルの灌水。
	果実肥大と、樹勢の維持 (花芽分化の正常化)	硫安 20kg (～30kg) 畑のカルシウム 20kg (～30kg) ※梅雨期の果実肥大と樹勢維持には チッソ肥料を与えます。しかしチッソ過多にせず、栄養バランスを健康に保ち、厚い葉で、黒斑病も少なくするには カルシウム施用が大事です。 ※土壌EC: 0.2以下 (硫安施用後0.4迄)、葉中チッソ3.7%前後の範囲内で、状態によりチッソとカルシウム量を調節します。 ※特にチッソとカルシウムを多量に施す場合は、20kg ずつ2回 (15日間隔)に分施するのが効果的です。
(6月末～7月) 収穫40日前	果実の品質向上	カルテックCa粒状 (または 畑のカルシウム) 20～40kg ※6月に十分なカルシウムを施用し、効いていれば 不要。
収穫20日前	果実の肥大	硫安 20kg (状態を見て) ※または 濃縮酵素液 3リットルを灌水か、葉面散布

※モンパ病の対策…

ひどい場合は まず根を掘って **濃縮酵素液** (1本当り) 1リットルを 100倍に薄めて灌注し、根を洗います。3～4日後、**ラクトバチルス** 30グラムを米ヌカ 7kg に混ぜて、散布し、覆土します。その後、7日ごとに2回、**濃縮酵素液** 300倍の灌注をして下さい。



平成13年6月9日
中山町 幸水 西村さん
右: 茎が太い (カルテック)
左: 茎が細い (慣行)



赤碕町 奈良さん
モンパ病から回復した例。②で根が回復して発根している